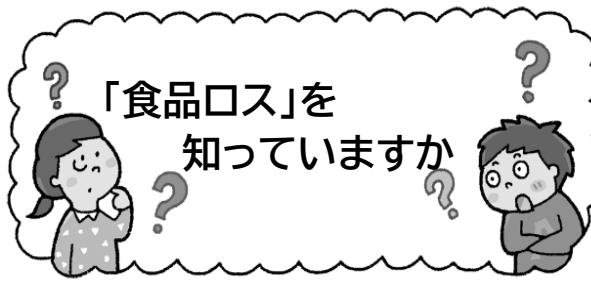




給食だよじ

2月には「節分」があります。「節分」とは「節（季節）を分ける」という意味で、各季節が始まる節目の前日をいい、2月の「節分」はちょうど春の始まり「立春」の前日となります。本来は夏や秋にも「節分」はあったのですが、立春は新しい年の初めの節目として重要視されたことから、現在は節分といえば2月となったのです。暦の上では春とはいえ、寒さはまだまだ厳しいです。食事の前の手洗い、栄養バランスのとれた食事、そして十分な睡眠をとって元気に春を迎えましょう。



まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物のことを食品ロスといいます。食品ロスには、売れ残りや期限が切れたもの、調理の時の皮のむきすぎ、食べ残しなどがあります。食品ロスを減らすためには、家庭や社会全体でさまざまな取り組みを行うことが必要です。

日本の食品ロスについて

日本の食品ロス量は年間で472万トン（※1）と推計されています。

これは、日本の人口1人当たりで、毎日おにぎり1個（103g）を捨てている計算になります。また、472万トンのうち食品関係の事業者からなる事業系食品ロス、一般家庭からなる家庭系食品ロスともに236万トンで、事業系は主に規格外や返品、売れ残り、食べ残しなどで、家庭系は主に食べ残しや手つかずの食品、皮の剥きすぎなどが発生原因です。

※令和4年度推計（農林水産省・環境省）

世界では食糧不足も

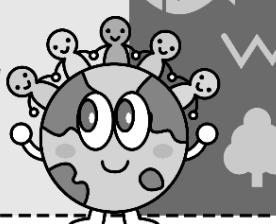
日本では毎年多くの食品ロスが発生している一方、SOFIの報告によると、2023年に飢餓に直面した人は約7億5700万人、また飢餓だけでなく食料不安におちいっている人も世界中に約23億3000万人いると言われています。先進国では多くの食料が廃棄されている一方で、開発途上国では貧困や自然災害、紛争などによって食料が足りなくなるという「食の不均衡」が起きています。



み ちか エスディージーズ い し
ここ数年で、「SDGs」という言葉をよく目にするようになりました。SDGsとは「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」を略した言葉で、国際連合に加盟する193の国々が、2030年までに達成すべき17の目標です。現在、世界では気候変動、飢餓、紛争、感染症など、さまざまな課題を抱えていますが、これらを解決し、世界中のすべての人びとが、安心して暮らし続けられる社会を目指すものです。

SDGs 17の目標

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさも守ろう
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	



2月 献立紹介

2月3日（月）：節分メニュー

麦ごはん 牛乳 けんちん汁 いわしの梅みそ煮 マヨネーズ和え 節分豆

2月7日（金）：北方領土メニュー

麦ごはん 牛乳 厚揚げと大根のみそ汁 タラのカレー風味焼き 昆布和え

2月20日（木）：西都の日（カラーピーマン）

ミニ黒糖パン 牛乳 クリームスパゲッティ ピーマンサラダ

★1月のリクエスト献立はこちらでした！

減量麦ごはん、牛乳、キムチトックスープ、塩唐揚げ、ゆでやし、焼きプリンタルト

